

スポーツ・ツーリズムムーブメント創出事業（ス  
ポーツ文化ツーリズム創造・発信事業）

---

事業実施報告書

令和3年3月



|                          |    |
|--------------------------|----|
| <b>1. 事業概要</b> .....     | 2  |
| 事業名、事業目的、業務内容、実施体制 ..... | 3  |
| <b>2. 広報動画</b> .....     | 4  |
| <b>3. 取組事例調査</b> .....   | 6  |
| 目的・調査手法・調査内容 .....       | 7  |
| <b>4. パンフレット</b> .....   | 10 |

---

# 1. 事業概要

---

# 1. 事業概要

## 事業名

スポーツ・ツーリズムムーブメント創出事業（スポーツ文化ツーリズム創造・発信事業）

## 事業目的

本事業は、2016年3月よりスポーツ庁・文化庁・観光庁の3庁が包括的連携協定を締結し、スポーツや文化芸術資源の融合によって生まれる新たな地域の魅力を国内外に発信をし、訪日観光客の増加を促すだけでなく、国内観光の活性化を図ることを目的としている。また、本年はコロナウイルス感染症拡大により全国的に観光客数が減少の一途を辿るなかで、「スポーツ文化ツーリズム」の取り組みが少しでも多くの地域に認知をされ、今後観光客数が回復した際に、地域活性化への一助となることを目指すものとする。

## 業務内容

地域のスポーツイベントと文化芸術資源を結び付け、世界に誇れる新たな観光資源を生み出す「スポーツ文化ツーリズム」の定着を図るべく、その意義を広く発信するため、【第5回スポーツ文化ツーリズムシンポジウム】の開催及び取り組み事例を発信すると共に、取組事例を多言語化してWEBサイト等で国内外に発信する。

また、当初はシンポジウム開催を予定していたが、コロナウイルスの影響により広報事業（動画・パンフレット）に代わることとなった。

### （1）広報動画作成

各受賞団体の取り組み内容を発信すべく、13団体の取り組みをそれぞれ1分程度にまとめた。さらに、スポーツ庁・観光庁・文化庁の3庁の長官に対して、本事業に関するメッセージを撮影し、盛り込んだ。

### （2）取り組み事例調査・報告書作成

各受賞団体の取り組み事例を調査を実施した。実際に現地に赴いてヒアリングを行う予定だったが、コロナウイルスの影響によりメール・電話でヒアリングを行った。調査については、本事業に応募したきっかけや課題に対して取り組んできたことなど深掘りの調査を実施した。

また、実際に本アワードを受賞した団体のその後（よかった点など）を追加ヒアリングすべく、インタビュー形式にて対談を行った。なお、各団体の詳細概要をとりまとめた報告書に加えて、ポイントのみを抜粋したダイジェスト版の2つ作成をした。

### （3）パンフレット作成

動画にも紐づくが、各受賞団体の活動内容および評価ポイントをまとめたパンフレットを作成した。本年はシンポジウムが中止となってしまったが、より本事業を周知してもらうべく、全国都道府県の関係各所へ配布する。

## 実施体制

### 株式会社日本旅行

統括責任者 竹田 哲也（次長） 実施責任者 小野 考一（課長）  
担務：全スタッフの統括 担務：各スタッフの業務管理

全体管理 岩崎 大介（課長代理）  
担務：事業全体の遂行管理、各スタッフへの業務指示

主担当 飯島 健太（課員）  
担務：スポーツ庁との連絡窓口、事務局業務の遂行

サポートスタッフ 西尾 匡司（1名）\*予定  
担務：各団体への連絡調整、運営マニュアル作成 等

### Ageshio Japan株式会社

実施責任者 古田 桂一（COO）  
担務：現地調査とりまとめ・ヒアリングシート作成・調査報告書作成

総括責任者 上田 健次郎（CEO）  
担務：調査団体連絡調整・ヒアリングシート作成 等

サポート カルロ・アンジェルス（マネージャー）  
担務：現地調査サポート・翻訳確認作業（必要であれば） 等

株式会社日本旅行（事業実施主体）、調査については、Ageshio Japan株式会社の二者が、各々の強みを生かせる連携体制を確立した。

---

## 2. 広報動画

---

## 2. 広報動画

シンポジウムに代わる広報事業として20分間の動画を作成した。動画内容は以下構成の通りまとめた。

本動画については、各受賞団体だけでなく、今後取り組みに応募を予定している団体などにも見てもらい、まずは各団体の取り組み内容を知ってもらうことで事業の周知を行う。さらには、次年度以降に応募数を増やすための一助を担えればと考えている。なお、詳細の全編動画はDVDとして納品する。

### 【動画内容】

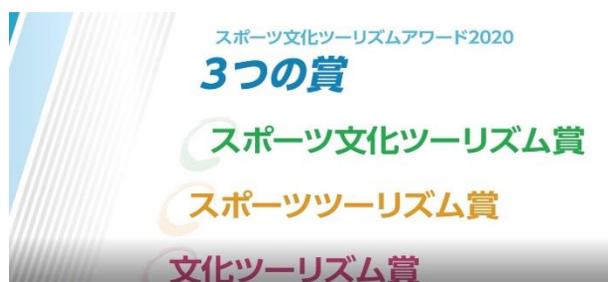
- スポーツ文化ツーリズムアワードの説明
- 3庁連携についての説明
- 3庁長官によるメッセージ
- 受賞団体の紹介

以下、流れに沿って、動画キャプチャ画面を共有する。

### 【全体の動画の流れ】 ※一部抜粋をした。



▲オープニング



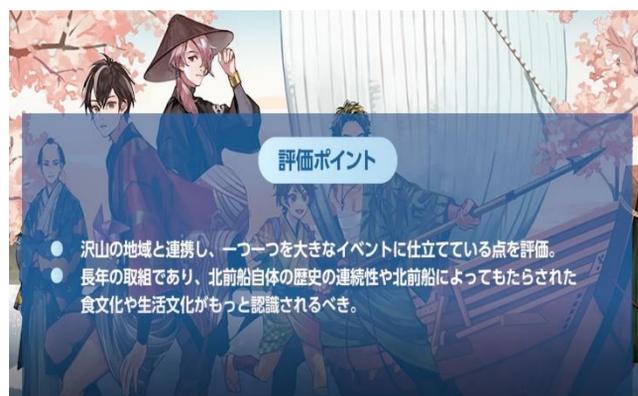
▲スポーツ文化ツーリズムアワードの説明



▲スポーツ庁・観光庁・文化庁の3庁長官によるメッセージ



▲各受賞団体の賞区分・事業名をそれぞれまとめた



▲受賞団体の評価ポイントを団体ごとにまとめた。

---

## 3. 取組事例調査

---

### 3.取組事例調査

#### 目的

本事業は「スポーツ文化ツーリズムアワード2020」で選定した13件の事例について、事業内容やアワードへの応募動機、アワードへ関心のある方へのメッセージなどを受賞団体からアンケートにより聞き取り、公表することで、地域のスポーツイベントと文化芸術資源を結び付け、世界に誇れる新たな観光資源を生み出す「スポーツ文化ツーリズム」の定着に繋がることを目的としている。なお、本事業については、AgeshioJapan株式会社を中心に作成をし、詳細は別添『調査報告書』にまとめた。

#### 調査手法

「スポーツ文化ツーリズムアワード2020」の受賞13団体にヒアリングシートを配布して調査をおこなった。

#### 調査内容

本業務では下記の項目で調査を行った。

#### 【質問表】

##### 1. 受賞された事業内容について

- Q1. 貴事業の立ち上げに至る経緯（地域での課題や、構想から現在まで）について教えてください。
- Q2. 貴事業をスタートする際に設定していた目的・狙いについて教えてください。
- Q3. 貴事業における特徴やPRポイントについて教えてください。
- Q4. 貴事業を通じて獲得できた実績・成果について教えてください。（特に数字などで具体的に効果を示すことのできるものがあれば、積極的にご記載下さい）
- Q5. 貴事業での直近やこれまでの課題があれば教えてください。また、これまで課題に対して対応されてきたことがあれば、そちらも教えてください。
- Q6. 貴事業での今後の目標や実現したいことを教えてください。

##### 2. 「スポーツ文化ツーリズムアワード」について

- Q7. スポーツ文化ツーリズムアワードへの応募動機と、アワードを知ったきっかけを教えてください。
- Q8. スポーツ文化ツーリズムアワードを受賞したことへの期待する効果を教えてください。
- Q9. スポーツ文化ツーリズムアワードをさらに盛り上げていくために、こういった企画や仕掛けが有効だと思いますか？
- Q10. スポーツ文化ツーリズムアワードへの申請数を増やすためには、こういった受賞メリットが有効だと思いますか？

##### 3. ご意見、ご要望

- Q11. スポーツ文化ツーリズムの推進に関して、3庁（スポーツ庁・文化庁・観光庁）へのご意見やご要望があれば教えてください。
- Q12. スポーツ文化ツーリズムや当アワードに関心のある方へ、メッセージをお願いいたします。
- Q13. その他、ご意見やご要望などございましたら、教えてください。

# 3.取組事例調査

以下、ページを抜粋したものである。(本編・ダイジェスト版)

## 本編

スポーツツーリズム・ムーブメント創出事業  
(スポーツ文化ツーリズム創造・発信事業)

スポーツ文化ツーリズムアワード2020

採択事業13事例 調査報告書



2020年度(令和2年度)

2021年 3月 26日

▲13団体の取り組みをまとめた報告書(本編)

## ダイジェスト版

スポーツツーリズム・ムーブメント創出事業  
(スポーツ文化ツーリズム創造・発信事業)

スポーツ文化ツーリズムアワード2020

採択事業13事例 調査報告書  
(ダイジェスト版)



2020年度(令和2年度)

2021年 3月 26日

▲13団体の取り組みをまとめた報告書(ダイジェスト版)

### 4. 調査結果

#### 受賞された事業内容について

Q5.貴事業での最近やこれまでの課題があれば教えてください。また、これまで課題に対して対応できたことがあれば、そちらも教えてください。

- ・天候に左右されるイベントであることから、賞天時における代替開催地確保が容易ではない。
- ・コロナ禍により、今年度は開催見合わせ。事業の範囲として、このような状況下でも下北半島に思いを馳せるような商品(弁当等)の開発を検討中。

Q6.貴事業での今後の目標や実現したいことを教えてください。

地域の食に関する取組みが広がったことで、今後予定している食のEC等の展開に力を入れたい。コロナ禍で観光客が大きな打撃を受けたことから、レジャーリソースを観光に活用した運営をしたい。

#### 「スポーツ文化ツーリズムアワード」について

Q7.スポーツ文化ツーリズムアワードへの応募動機と、アワードを知ったきっかけを教えてください。

- ・観光庁(東北振興局)からDMOへ発信された募集開始のメールで。
- ・食文化ツーリズムは、従来から本事業立ち上げ時の取組めコンセプトと合致していたことから、応募に至る。

Q8.スポーツ文化ツーリズムアワードを受賞したことへの期待する効果をお願いします。

- ・大変名誉ある賞なので、各方面にPRする際のお墨付きとしての効果も期待。
- ・また、地域内の認知度向上、取組みに賛同してくれる地域プレーヤーの発掘にも繋がると期待。

Q9.スポーツ文化ツーリズムアワードをさらに盛り上げていくために、どういった企画や仕掛けが有効だと思えますか？

一般投資部門を追加することで、取組めの認知に効果があるのではないかと。

Q10.スポーツ文化ツーリズムアワードへの申請数を増やすためにはどういった受賞メリットが有効だと思えますか？

スポーツ界や文化界、料理界など、各分野の著名人が実際に取組みを体験し、その様子や動画等で広報できれば、集客効果も高まり、応募に対する意欲が増すのではないかと。



52

▲各受賞団体への調査結果をまとめた。

### 4. 過去に採択された事業者へのインタビュー

#### アワードの受賞効果を本書で語る！

#### 仲間の受賞団体が語る、当アワードの魅力と今後の展開

2018年に一般財団法人 沖根観光コンベンションビューロー主催で行われた「賑げる地域づくりの中継リーダー育成プログラム」。その研修で名で編成されたチーム内から、3団体の当アワード受賞団体が生まれた。今回はその経緯を話し、当アワードの魅力や今後の展開や改善点について本書で語ってもらう。

今回のインタビューにご協力いただいたメンバー

- 受賞団体 1：一般社団法人 赤湯市観光協会元岡 伊藤 兼輝 (現Apean合同会社 / 写真右下)  
2018年受賞「沖根観光コンベンションビューロー主催 (5-6ヵ月) サバニ乗船体験」
- 受賞団体 2：株式会社曲部・大城 宗久 (写真左上)  
2017年受賞「沖根観光コンベンションビューロー主催の「プロパティ」南の島の真つ国旅」
- 受賞団体 3：Agastio Japan株式会社 吉田 桂一 (写真右上)  
2020年受賞「世界でたった一つ! 空手発祥地沖野の空手ツーリズム事業」
- 司会進行：一般財団法人 沖根観光コンベンションビューロー 酒井 達也 (写真右左)  
3人が参加した「賑げる地域づくりの中継リーダー育成プログラム」の運営責任者



#### スポーツ文化ツーリズムアワードへ応募した経緯

酒井「2018年に行われた研修の1チームから、スポーツ文化ツーリズムアワードの受賞が団体も誕生しました。今回はその経緯を話し、本書でアワードを語ってもらうという企画です。早速ですが、まずはじめに受賞した応募動機と事業内容についてお一人ずつお話を聞かせてください。」

#### 観光サービス構築による地域文化の保存が狙い。受賞で協力が増加

伊藤「今は離れたのですが、赤湯市観光協会在籍時の2016年に伝統的建造物群保存地区の乗船体験でアワードの1団体に受賞しました。事業は平和祈念公園など観光客のイメージが強いので、ボジティブな観光要素も欲しいなと思っていて、そこで、赤湯市には海(ウミツミ)文化を代表する帆船サバニがあるから、観光で活用することはできないかと考えていました。ただ帆船サバニの作り手が減少しているという地域課題もありましたので、それもなんとかしたいと考えて立ち上げたのがサバニを活用した観光サービスでした。ただ、立ち上げに苦労して、お金も掛かるので、何か付加価値をつけたいと思い申請したのが当アワードです。」

写真提供：伊藤 兼輝氏

- ・酒井「観光サービスで文化保存に繋げるのは素晴らしいですね。実際アワード受賞で何か変わりましたか？」

伊藤「私も変わったのは、受賞を機に協力が増えた点です。若年からはサバニのインストラクターも増やそうということで赤湯市と協力で講習会や勉強会を開催15名程のインストラクターが生まれました。現在では赤湯市を代表する観光サービスとなり、当初から活動していた方々を中心に帆船サバニ振興会という団体まで立ち上がりました。また、受賞翌日のメディア掲載を見て、すぐに大旅行会社からの問合せの連絡もあったりしたので、効果は大いにあったと思います。」

#### 職員へのコンテンツ価値の再認識と、競合との差別化が狙い。受賞でコンテンツへの自信に繋がった

- ・酒井「大城さんはどうしてアワードへ応募しようと思ったのですか？」

大城「以前より知っていた伊藤さんが受賞したということを知り、このアワードに興味を持ちました。弊社の場合はアワードという第三者から評価を頂くことで、僕らも職員がコンテンツの価値を再認識し、チームの結束や社内でのムードを向上させたいという狙いがありました。また、新選抜戦というイベントのコンテンツで申請したのですが、クイピングは国内に多数あるもので、その中で差別化したいという狙いもありました。もちろん受賞後のメディア掲載なども、認知度アップに繋がりたいという面もありました。」

9

▲過去受賞団体へのインタビューをまとめた。

### 3.取組事例調査

なお、本調査を取り纏めたAgeshio Japan株式会社については、本事業の受賞団体にも選出をされており、沖縄観光コンベンションビューローの「OCVBニュースレター」にて取組み事例の掲載をいただいたため、参考までに記載する。

#### 令和2年度空手ツーリズム魅力創造事業（スポーツ庁受託事業）

企画・施設事業  
止部課

#### ●Ageshio Japan株式会社 スポーツ文化ツーリズムアワード2020特別賞受賞

当財団で実施中の空手ツーリズム魅力創造事業の連携先であるAgeshio Japan株式会社がこの度、スポーツ庁、文化庁及び観光庁の3庁が推進するスポーツ文化ツーリズムアワード2020の「武道ツーリズム賞」を受賞されました。アワードはスポーツ文化ツーリズムの推進に寄与する先進的な取組や今後スポーツ文化ツーリズムの実現を目指す取組について、過去の実績を含めて発掘し、今後の観光の活性化を図るため優秀な取組を選定・表彰することを目的としています。



#### スポーツ文化ツーリズムアワード2020 【武道ツーリズム賞】特別賞

（申請団体）  
Ageshio Japan株式会社



#### 取組み概要

空手資源・観光資源を融合し、沖縄を訪れる空手家・旅行者を対象に空手ツーリズム商品を開発。「空手ツーリズム」という、世界中でも唯一の、新たな観光市場を創出するとともに、沖縄県内の空手・観光業界発展への貢献も目指している。

#### 世界でただ一つ！空手発祥地“沖縄”の空手ツーリズム事業

#### 過去受賞歴

県内では過去に「沖縄海人スピリッツ!!いとま帆掛（ふーかき）サバニ乗船体験」（糸満市観光協会,2016）、「沖縄に残された最後のフロンティア 南の島の洞くつ探検」（株式会社 南都,2017）が同アワードを受賞しています。賛助会員の皆様でスポーツ文化ツーリズムの目的にそった自社サービスを開発されていらっしゃる事業者様は、次年度以降、同アワードに応募されてみてはいかがでしょうか。

お問い合わせ先：企画課（担当）酒井 TEL：098-859-6126 FAX：098-859-6221 E-mail：dmo@ocvb.or.jp

### OCVB 施設概況

#### 旧海軍司令部壕/海軍壕公園 <http://kaigunbou.ocvb.or.jp>

旧海軍司令部壕は、第二次世界大戦の末期、海軍が小禄飛行場を守るために造った重要な軍事拠点であり、那覇市内、空港からも近い平和学習の場です。海軍壕公園は、東シナ海、那覇市街、普里郷が展望できる高台にあり、琉球王朝時代には「火薬森（ヒヤナムイ）」と呼ばれ、中国や薩摩等からの未だを伝えるために「のろし」を上げ、いち早く普里郷へ伝えるための通信拠点でした。現在は市民の憩いの広場として、また恒久平和の祈りの場所として整備され、遊具広場のすべり台で遊ぶ子供たちやウォーキングを楽しむご夫婦連れなど、多くの市民に親しまれています。



#### 島田知事と大田司令官、何が二人を結びつけたのか

令和3年3月6日に桜坂劇場で全国に先駆けて先行公開される映画に旧海軍司令部壕も制作にあたり、取材を受けました。米軍上陸必至の沖縄に、そこが死地と悟りながら敢然と赴任した戦中最後の沖縄県知事・島田勲と、民衆にとつての沖縄戦とは何か。

島田は、県知事として、軍に協力する義務と住民の命を守る使命の狭間で苦悩します。しかし、国のために死を求められた。島田知事は、「生きる」の言葉を残します。なぜ、島田はその言葉にたどり着いたのか。映画の中に出てくる多くの証言と資料からそれを紐解いていきます。その島田知事と同様の価値感を持っていたのが大田実司令官でした。「県知事に替わって、」とって始まる「沖縄県民斯く戦えり」の電文は、まさに島田知事の思いも代弁したものだと言えるでしょう。



<http://ikiro.arc-films.co.jp/>

お問い合わせ先：旧海軍司令部壕事業所 営業時間（10-6月）8:30～17:30（最終入館17:00）定休日：なし  
TEL：098-850-4055 E-mail:kaigunbou@ocvb.or.jp

---

## 4. パンフレット

---



